

8/30 (日) 18:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

today's guest : **ブラウブリッツ秋田**

2019 J3 13勝10分11敗 勝ち点49: 8位

直近の対決と結果

2007/11/11
JFL - 後期14節@仁賀保
TDK SC 0-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		ブラウブリッツ秋田	
2020/08/15 J3 - 10節@ギオンス 相模原 3-1 岐阜		2020/08/22 J3 - 11節@ソユスタ 秋田 1-1 G阪23	
2020/08/08 J3 - 09節@長良川 岐阜 1-1 岩手		2020/08/15 J3 - 10節@ピカスタ 讃岐 0-0 秋田	
2020/08/02 J3 - 08節@藤枝サ 藤枝 3-1 岐阜		2020/08/09 J3 - 09節@ソユスタ 秋田 2-1 熊本	

2020J3 ■順位表■第11節勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

(注: *印は消化試合が1つ少ない)

1 秋田	29p	+16	19	3	
2 鳥取	23p	+8	17	9	AO
熊本	23p	+8	21	13	HO
4 富山	18p	+9	21	12	
5 長野	18p	+7	19	12	
6 相模原	18p	0	13	13	A●
7 鹿児島	17p	+3	20	17	AO
8 藤枝	17p	+2	22	20	A●
9 今治	16p	+2	11	9	H△
*10 岐阜	15p	+3	15	12	---
11 沼津	13p	-3	11	14	
12 八戸	12p	-4	13	17	
13 岩手	11p	-12	12	24	H△
14 YS横浜	10p	-7	17	24	
*15 福島	9p	-3	12	15	
16 G阪23	9p	-9	14	23	HO
17 讃岐	6p	-9	10	19	H△
18 C阪23	6p	-11	10	21	A●

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定 (H&A実施完了時のみ)

次回HomeGame

第13節 vs.Y.S.C.C.横浜

9/2 (水) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場**大酒場 ホームラン**名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

●記録的な長梅雨や豪雨の後、記録的な猛暑とゲリラ豪雨といった厳しい天候が続く2020年J3リーグ。8/8(土)第9節・ホーム岩手戦では、#28永島悠史のゴールで先制するものの、前半終了直前のCKで失点。後半は攻撃の糸口をなかなか掴めず、逆に岩手にチャンスを作られるシーンも目立つ中、1-1での引き分けとなってしまった。続く8/15(土)第10節・アウェイ相模原戦は、CKで先制点を許すも、直後に#24粟飯原尚平が同点弾。だが、その後にPKを外し、また決定機を元・岐阜の#1 GKピクトルに防がれると、流れを掴んだ相模原に2失点。1-3での手痛い敗戦を喫してしまった。そして、8/22(土)第11節・アウェイ福島戦。強い危機感をもって試合に臨んだ岐阜は、システム変更も奏功して、前半のうちに#2橋本和、#23大西遼太郎のゴールで2点を先制する。ところが、後半開始直前に発生した雷のために試合が中断、そのまま試合中止となってしまった。

この結果、FC岐阜は順位を5位から暫定10位に下げた。もし(8/25現在では中止扱いとなっている)福島戦が岐阜の勝利で終われば、FC岐阜は得失点差で6位に、4位・富山とも勝ち点で並ぶことができる。しかし、そうだとした場合も首位・秋田とは勝ち点差が11、2位タイの鳥取・熊本とも勝ち点差が5ある。これ以上、離される訳にはいかない。そして、これで2020年J3リーグは、全34節の約3分の1を消化したことになる。これまでのFC岐阜は、4勝3分3敗・15得点12失点という戦績だ。勝ち越してはいるが、今季の“J3優勝”という目標からすれば、到底満足できる数字ではない。そして岐阜は、2位タイの鳥取・熊本から勝利を挙げる一方で、17位・讃岐に引き分け、18位・C大阪U23に負けるなど“勝つべき試合に勝つ”ことが実践されていない。特に、決定機でゴールを奪えない場面、あるいは不用意なミスで失点する場面が散見され、それが勝ち点の取りこぼしにも繋がっていると言えるだろう。熾烈な優勝争いを勝ち抜く中では、そういった僅かな勝ち点の差、得失点差が致命的な結果に繋がることもよくあることだ。今一度、チーム・クラブ全体で強い危機感を持って、目標達成のために今後の試合では勝利を掴み取り続ける、そういった強い決意が必要だ。

さて、今節の対戦相手は、先述した首位・ブラウブリッツ秋田。2010年に前身のTDKサッカー部から現クラブ体制になり、2014年からJ3を戦っているチームだ。2017年にはJ3で優勝するが(当時の秋田はJ3ライセンスのために昇格出来ず)、その後の2年はともに8位に終わり、前・沼津監督の吉田謙氏を迎えて体制を刷新。選手も半分近くを入れ替えて臨んだ今季は、開幕から無失点の6連勝、その後も連勝を9に伸ばした。直近2試合は讃岐・G大阪U-23に引き分けているが、それでもダントツの首位、そして今季J3で唯一の無敗を誇っている。今季の秋田は、前線からのボールへの素早い寄せ、奪ってから素早いカウンター攻撃、そして精度の高いセットプレーを武器としており、その名の通り“青い稲妻”。2トップで4得点の#9中村亮太、2得点の#29齋藤恵太も要注意だが、全得点の半分近くをセットプレーで叩き出している状況では、キッカーである#15江口直生の右足こそ最も警戒すべきだろう。これに対して、昨年まで秋田の守護神だった、#31 GK松本拓也を中心とした岐阜の守備陣が、秋田の攻撃を零封してくれる姿を期待したい。また、秋田は複数失点を許しておらず、総失点が3と守備も堅牢だ。月間MVPに輝いた#21 GK田中雄大の牙城を、岐阜の攻撃陣が必ずや崩してくれると信じている。また、クラブ化した秋田とは初対戦となるが、前身のTDKとは2006年に地域決勝・決勝ラウンドで対戦し、TDKは優勝、岐阜は2位だった。翌2007年JFLでの対戦は、岐阜の1勝1分・1得点無失点。13年ぶりの対戦となるが、今回も岐阜の勝利で終わらせなければならない。

厳しい対戦相手ではあるが、この壁を突き破らなくては今後の岐阜に明るい未来はない。そして僕らFC岐阜サポーターも、大きな声援や手拍子で選手たちの背中を押すことはできないが、タオマフ・ゲーフラの掲出や(振るのは禁止)、試合中の拍手(手拍子は禁止)等で、選手たちの背中を後押ししよう。そして試合後には、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、勝利の歓喜を分かち合おう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第9節】岐阜 1-1 岩手

●今年は長梅雨の影響なのか、それとも7月に試合が集中してるからなのか、雨の試合がとて多い気がする。そして、今日こそは晴れてくれるかと思ったんだけど、激しい夕立の中でのキックオフ（溜息）。今までの僕だったら、雨のピッチのアクシデントで生まれる決定機を期待したりしてたんだけど（苦笑）、このJ3では多くの場合、こちらが“上位チーム”。そして、雨の試合は選手たちの体力を消耗する。そうでなくても過密日程の今季、選手たちのコンディション調整は一層重要になるんだろうな。

さて、今日の試合も序盤からペースは岐阜が握る。だけど、今日の試合もゴール前に迫りながら、なかなかシュートチャンスが作れない。そもそも、岐阜がボールを持ちながらゆっくりと攻める場面が多いので、相手がゴール前に密集していて、その網に何度も引っかかる。そこを崩すためには精度の高いパスを素早く繋ぐか、あるいはドリブルで切り崩すかと思うのだけど、残念ながら、そのどちらも実現できていない。というか、ゴール前の密集地帯で足を止めてボールを出し入れしてりゃ、そりゃ相手の網に引っかかりますよねえ……（溜息）。そーいえば、岐阜の選手って、あまりドリブルで崩していくイメージないんだよね。岩手の#6モレラトなどを見ると、ボールを奪うとまずは自分で運んでいくから、そこをチェックしないと簡単に自陣への侵入を許して……まあ、それはそれで自分たちの守備バランスも崩すから、諸刃の剣なのは分かるのだけれど。……などと思いながら観戦していると、前半24分に岩手ゴール前の混戦で#11前田遼一がキープしたボールを#28永島悠史が蹴りこんで先制点！よし、これで岐阜は勢いに乗って……いかないのね（溜息）。相変わらず敵陣でのプレーが続くが、運動量が増えていかない。もしかして……疲れてる？そうすると、前半終盤に岩手に押されはじめる。DFラインでボールを奪うのだけれど、そのクリアボールが味方に繋がらず、セカンドボールを再び岩手に拾われる展開。そして、前半終了直前のCK。またも、こんな大事な時間での失点。そして、またもファーサイドでの守備連携ミス。……何回目？もう、相手チームには『岐阜戦ではCKはファーに蹴れ』ってメモが回覧されてる気がしますよ……（溜息）。

ハーフタイムを挟んで、後半には岐阜の選手たちも気持ちを切り替えて、戦術を修正して……対応してるのは岩手の方の気が（苦笑）。うーむ……運動量が落ちているのは、（前々からまことしやかに噂されているけれど）やはり岐阜の猛暑で選手たちの消耗が激しいからなのかしら。それとも、連戦の中でスタメンがほぼ固定だったのが悪影響しているのかしら。どちらにせよ、なんとか解決策を考えていただきたいものです。

後半の岐阜は、残念ながらあまり決定機らしい機会は少なく、後半終盤には再び岩手のシュートを何度も浴びる展開に。なんとか、1-1で試合終了。粘り強い守備で決勝点を許さなかったと言えば聞こえは良いけれど、今季のホーム戦で、この結果はいただけない。『ホーム戦は全部勝つ』ぐらいでなくては、J3優勝など達成できない。しっかりと原因究明と修正をして、このような試合を（厳しい観戦制限の中でもスタジアムに来ている）岐阜サポーターの前で繰り返さないようにしてほしい。

（ささたく）

●衝撃的な試合だった。終わった瞬間、椅子にもたれなければ体を支えられないような脱力感。ほぼサンドバッグのようだった後半（と、記憶してるが、それは思い違いだろうか？記憶が混乱してるのかな？思い出したくもないのだけれど）。

前半は悪くなかった。先制した後もチャンスは作った。ただ、そこを決めきれないでいるうちに前半が終わりかけたのがすべての始まり。そして、相変わらずの終了間際の失点。すっかり見慣れたパターンだったが、まだ同点。長良川で前節のようなふがない試合を見せられてたまるか、選手たちもそう思ってるだろう？と後半に期待を掛けてたんだけどね。ただ、ただ、ストレスばかりが溜まり続ける内容だった。情けないね。

繰り返しになるけど、前半は悪くなかった。逆に、岩手は同点時の一発だけで、特に怖いところは見当たらなかった。それを一変させたのが、岩手が取った後半開始10分も経たないうちの3枚替え。あの交替で岩手の姿勢が前掛かりになり、勢いをつけた。

指揮官の「恐れるな、攻めろ！」という意図が明確に伝わり、それが如実に表れた素晴らしい采配だったと思う。誰ですか？ウチと当たるまで監督を替えなくてくれ～とか思ってたのは、スイマセン、ボクです。だからといって、向こうの監督が噂と違っていい指揮官じゃないか、とは思えなかった。ただ、この試合において、カンフル剤（古い）を打ったこと、効果的な策を奏したことは疑いようもない。それに比べて……、つつい愚痴りたくなるのを許してもらえらうか。

勝利に、勝ち点3により近づいたのはどちらだったか。より、明確な意図を伝え、効果的選手起用をしたのはどちらの監督だったか。すべからく明白だと思っているのはボクだけでしょうか。クラブや選手、スタッフの目標はあるけれど、ボク自身は「無事にシーズンが終わってくれること」のみを望んでいます。しかし、だからといって、ふがない試合で構わないという考えは微塵もありません。判で押したような交替しなくて、勢いもリズムもつけないことができない。それって、どうなんだろうね。こんな展開で負けなかったことだけはよかった。相手に助けられたとはいえず、選手たちが体を張った結果とも言えます。繰り返しになりますけど、少なくとも長良川でこんな試合をやってもらっちゃ困るんですよ。以後、気をつけるように……としか言えないなあ（苦笑）。（ぐん）

●藤枝戦のこっぴどい負け方には「不満はないけど不安だらけ」と書いたけれど、その時と違って勝ち点1を獲得した岩手戦の感想は「不満だらけ」。試合が終わって戻ってくる選手に拍手する／しないは個人の自由でいいのだけれど、ぼくはする気にはなれなかった。

前半は岩手の自信なさげなプレーばかりが目についた。「何をそんなに脅えているのだろう」とすら思った。綺麗にサイドを破ってからの永島の先制ゴールも、岩手があれだけ引いていたらさもありなん。相手が脅えている間にあと1点でも2点でも奪っておけば試合の展開も結果も変わったと思う。しかし、終了間際にCKから同点に追いつかれる。

そして、後半は様相が変わった。というか、岩手が「変えた」。岩手DFが思いっきりラインを上げた。10メートルくらいは上げたんじゃないか。これで、岐阜の攻撃に対処出来ると確認出来たからか、秋田監督は後半開始数分で3人同時交代、前線3人の全とっかえを敢行。これで、岐阜の攻撃に対処するどころか岐阜の攻撃そのものを鎮火させてしまった。後半は明らかに岩手のゲーム。もし岩手の『裏抜けの名手』岸田（山口に所属していた2017と2018年にしっかりやられているので記憶にあるひと多いかも）が出場停止でなかったら、岐阜は勝ち点1の獲得もむずかしかっただろう。

かくして、なんとか勝ち点1は得たのだけれど、ぼくはこの日の岐阜の戦い方に「失望」でも「絶望」でもない、ある種の「呆れ」を感じてしまった。岩手の秋田監督は後半から戦い方を変え、選手を替え、見事に局面を打開することに成功した。一方、岐阜のゼムノビッチ監督はどうだろう？たしかに、選手は替えている。しかし、戦い方にはまったく手をつけない。

大木監督の頃のように、戦い方そのものがある種の存在理由（レゾナント）なチームならまだ理解も出来る。しかし、ゼムノビッチ監督のサッカーは、スタンダードなスタイルの一つに過ぎない。それが通用しなくなったら、別プランで打開を図るしかないのだけれど、それをしない。大木さんが「このサッカーしかしない」との決意でスタイルを変えなかったのと違い、ゼムノビッチ監督からは「このサッカーしか出来ない」という閉塞感を感じてしまうのだ。そして、そのサッカーの封じ方は藤枝が鮮やかな手順を公開してしまった。

以前から「岐阜攻略のマニュアルが出来た」という表現を見るし、ぼくもよく使っていた。けれど、いまはもう「岐阜の攻略マニュアル」というより「岐阜を美味しく食べるレシピ」と言った方がすっきりする。ぼくらは料理される立場にある。それを思い知らされた長良川の夜だった。

（吉田铸造）

【第10節】相模原3-1岐阜

●真夏の17時キックオフ。猛暑の中での試合に、前節・岩手戦での選手たちのコンディションが思い出されて、なんだか不安になってしまう僕。そしてやっぱり、ビクトルが相手ゴールマウスを守っているのにも、なんだか違和感を感じてしまう僕（苦笑）。そして今日の試合も、序盤は岐阜が多く時間でボールを支配して、相模原は奪ったボールをカウンター攻撃で狙う展開に。そして今日の試合も、足元へのショートパスは繋がるけれど相手を崩すことはできず、ロングボールは精度が悪くてなかなか繋がらず……。ロングボールが繋がって#10川西翔太がDFラインを抜け出した際も、残念そこはビクトル……。そして、今日の試合でも、岐阜は奪われたCKをファーに蹴られて、あっさりと失点…(溜息)。相模原は完全に狙ってプレーを成功させたので、今後は全てのチームが『岐阜の弱点』を狙ってくるだろう。早急に修正して対策をとるべき課題だと思う。「あー、岩手戦と同様にこの失点で相手を調子づかせてしまうのかな……」と思っていたら、なんと失点直後に#24 粟飯原尚平の同点弾！相手がゴール前に固まっていたけれど、それを1モーションいれてシュートコースを開けての見事なゴール。そして同点直後、今度はPA内に侵入した#2橋本和が倒されてPK獲得！しかし、GKがビクトルでプレッシャーがあったのか、なんと#9高崎寛之が枠を外してしまう。んで、その後に迎えた決定機も、そこはビクトル……。流れを掴んでいる前半のうちに追加点を取ればよかったのだけど、後半は「あー、こーやってGKが好セーブを連発すると、相手FWはシュート撃ちづらくなるのね」っていうのを、改めて思い知らされたというか、好セーブで味方DFにパワーが出ると言うべきか。その攻めあぐねてる僅かな隙に、相模原のカウンターが一閃、2失点目……。その後ボールは岐阜が支配するものの、前線でボールが繋がらずに相模原のカウンターを受ける展開が続く。カテゴリーが変わっても、監督が変わっても、未だに『ボールを持たされている』という展開には変化がないのかしら……。状況を開きしようと、岐阜は#15町田ブライトを投入するものの、“縦へのロングボールで裏抜けを狙う攻撃”つまり“縦ポン”にシフトしなかったため、その推進力を十分に活かすことができない。そうすると、自陣に味方が何人もいるのに、『こーやるんだよ』と言わんばかりに、一気にスピードを上げた相模原の選手にPA内で崩されて3失点目……。やっぱり、緩急つけたリズムや意表をついたパスコースだから相手を崩せるのであって、そうでないボール回しは守りやすいよねえ……。と、昨年と同じ様な愚痴を言っている気がするのは、僕だけでしょうか（苦笑）。

奇しくも今日は8/15 終戦記念日。そんな日に“今季は終戦”とはならないぞ、と心に決めていたのに、やっぱり試合終了後は『このまま改善されないと“終戦”かも……』と、少しネガティブな気持ちになる、そんな試合結果だった。

(ささたく)

●いやはや、もう、一体全体、なんと申し上げたらよいものか。前節の感想で「明らかに監督の選手起用に差があった。」とか「終わった時には脱力感しかなかった。」とか、いささか控え目な批判をしたワケですが、まさか、その次の試合でそれをさらに上回る意味不明な采配を見せられるとは。試合の観戦数には少しは自信がありますが、その割にはサッカーのことがあんまりわかっていない自分です。なので、どなたか教えてください。なんで、前半だけでワタルとユーシを下げたんですか？ケガですか？コンディションですか？戦術的交替ですか？得点シーンも含め、決定機に何度も絡んでいたワタル。ユーシの出来も悪くなかったと見えたんですが（自分の記憶違いでしょうか？）。しかも、リードしてるんならともかく、同点の場面で先に動く必要性は微塵もなかった。ホントによくわかりませんね。その結果が。カウンターというのもどうかと思うような牧歌的な逆襲を食らった失点とか、もうね。

確かに、PKの失敗は痛かった。そして、真夏の17時キックオフはキツイ。前節の教訓を生かして早めの交替で試合を優位に運ぼうとしたのかしらん？結果として、停滞感しかなかったけれども。

負けてはいけない試合だったし、負ける展開でもなかった。ただ、ただ、残念でしかない。

こんなことを書いていると「なら、あなたがS級取って監督をやればいい。」という意見があるかもしれない。うん、そういうのもありかもしれない。「オレはサッキになる！」とか、某漫画の主人公みたいにぶち上げることはできる。言うだけならカンタンだ。ただ、実際問題として、資格を取れる可能性は皆無。でも、だからといってライセンスがなければ批判できないということはないでしょう？試合内容や采配を批判するのにライセンスがいるのなら、スポーツ担当記者やライターの方は仕事ができなくなっちゃうんじゃないでしょうか？もちろん、自分は彼らと違って生業としてのワケじゃないんですけどね。それでも、思ったこと、感じたことは好き自由に表現していきます。せっかく、『岐大通』という媒体があるんですから。面白いサッカー、美しいサッカーじゃなくてもいいけど、何かが響く、心に残るサッカーはしてほしい。少なくとも、8月になってからの試合で、そんな試合は今のところ一つもなかった。次節からはそうじゃない試合を見せてくれますか？

(ぐん)

●これは、自信を失くしてるな……と思わざるを得ない、そんな試合だった。

岐阜の攻撃は後方から前線へのフィードから始まる。ここで、相手が前線から圧力をかけて供給元を遮断されると窒息する。あと、友人の表現を借りるけれど、地上戦でビルドアップを仕掛けていく手順が決まっていけない。決まっていけないからノリでやる。だから、受け手もフリーになれない。パスミスも生まれる。そこからカウンターを喰らう。岩手戦の感想で『レシビ』と書いたけれど、この試合もそうだった。鶏肉の野菜炒めは、小麦粉をまぶした鶏肉を先にサッと素揚げにして上げて炒めた野菜に後から合わせると旨味が逃げませんよ……というような感じで、岐阜は料理された。高崎のPKが決まっていたら、多少は有利に試合を進められたかもしれない。勝ち点1は手に入ったかもしれない。でも、きっとそこまでだろうなあ……。

そして、これは大いに気になるのだけど、このところ川西のマイティぶりが目立つ。下がってゲームを作り、上がってラストパスを出し、さらに上がってシュートも狙う。本人が「自分がやらなきゃ」状態なのか、周囲が頼っちゃってるのか、任せちゃってるのか。この、「川西が各所で目立つ」というのはチームとしては実によくはない傾向だが、実際のところ岐阜の攻撃はそうしないと動かないという部分はある。これはもう、チーム作りの問題というしかない。「チームとしての攻撃を作りこむ」という手順がパスされているようにしか映らない。練習を見ているわけじゃないから、結果からプロセスを想像するしかないけれどね。

クラブが『J3優勝』という夢を語るのも、『J2昇格』という目標を定めるのも構わない。というか、クラブ運営を考えればそれはとても大事なことです。でも、シーズンの3分の1も終わっていないのに、ぼくは、その夢や目標を見上げて過すのに疲れてしまった。目の前の試合の、勝った負けたを愉しむことにした方がいいのかな。来年のことは……その時になってから考えればいいや。

(吉田铸造)

【第11節】福島0-2 岐阜

※前半終了時点

●前回の相模原戦も、17時キックオフとナイター開催とは言えないような試合だったけれど、今回の福島戦は、なんと15時キックオフ。J3ライセンスではスタジアムに照明施設は必須ではないので、J2では考えられない時間帯にも試合が開催されるのが、J3特有の難しいところ。

さて、今回は初スタメンに#27イヨハ理ヘンリー。試合前の情報では3-4-2-1ということだったけれど、実際には#3竹田忠嗣が1ボランチ、#10川西翔太が1トップの4-1-4-1だったのかな？いずれにせよ、修正をしてきたFC岐阜。

すると、(対戦相手にも依るのだとは思うけど)前目の4選手がボールを奪い、サイドだけでなく中央からも攻めることができるようになり、攻撃の幅が増える。そして、奪ったはじめてのCKで前半8分、ファーにいた#2橋本和がコースを狙ったヘディングで先制点(移籍後初ゴールおめでとう)！一方の守備では、福島の得点源#9イスマイラを徹底的にマークして仕事をさせない。まあ、ちょっとヤバい場面も何度かありましたが、相手が外してくれて助かった(苦笑)。そして、ショートカウンターを狙う攻撃を続けて前半28分、#10川西が前線で奪ったボールを#23大西遼太郎が受けて、1ステップで相手をかわずと、ゴール左隅にシュートを決めて2点目(J初ゴールおめでとう)！その後も追加点は奪えなかったものの、岐阜が攻勢を続けて2-0で前半終了。

ところが、だ。さあ3試合ぶりの勝利に向かってドキドキしながら、しかし最後まで油断はしないぞと自分に言い聞かせながら(苦笑)後半開始を迎えようとしたら、なんと落雷により試合が中断。真夏の日中開催だから、そりゃタ立(ゲリラ豪雨)もあるよね…。しかも、このスタジアムには照明施設がない。だから、雷雨を避けて再開を遅らせるのにも時間の限度がある。よって試合は中止に……。この場合、規約によるとJリーグチェアマンが「90分の再試合」「中断時点からの再開」「中断時点で試合成立」の3つから決定することとされているらしい。これまでは再試合か再開のパターンみただけで、今季は過密日程だし福島は遠いし、もお試合成立で良いよ……。 (笑)

そーいや、福島ってホームユニの色が赤のハズなのに、なんでユニが桃色？って思ってたんだけど、調べたら『福島の桃』PRユニなのね。J3クラブで3rdユニを作ってる場所は珍しいと思う。今季の岐阜はやらないのかな？

(ささたく)

●前半を終えて2-0。この内容で2点リード。八月の声を聴いた途端に調子が下降気味、やることなすこと上手くいってないウチにとっては願ってもない展開だった。あとは、後半早めにダメ押しの3点目……とかを妄想しながらほくそ笑んでいたら、あんなにピーカンだった空が真っ暗になってた。ビックリして、外してたイヤホンに耳を当てたら聞こえてきたのが雷鳴。オワタ……。終わってしまった。いったん、雷が鳴って観客含めて避難したら、再開されずに中止で延期までがワンセットだよな？と思っていたら案の定。これで2年連続3回目、でしたっけ？これまでの群馬戦(まだ、草津だったかな？)と昨季の鹿児島戦は現地で体験してるから、3回目は現地じゃなくてよかったよ……と、文字通りの苦笑しか出てこなかったネカフェの禁煙ライニングルーム。面白くない夏の思い出がまた一つ増えた感じだ。会場が郡山ではなく、いつもの福島だったら……などという愚痴もつつい出てしまう。

ボクの見ただと、前半の内容的には福島のほうがよかった。やりたいサッカーをきちんと踏襲していて、決定機もウチより多かった。少なくとも、ボクにはそう見えた。そんな中でのセット・プレーとショート・カウンターからの2得点。劣勢でも結果を出すということにおいては満点の展開だった。それだけに、この中止は残念至極。過去の例から行けば、まるっとやり直すことはなく、中断したところから、今回なら2-0で後半最初から再開になると思う。ただね、こういう場合はリードしてた方が不利なんじゃないか？そうってしまうのは、今のウチの状況がよくない

からかしらん？この試合に勝って、次節・長良川での秋田戦に氣勢を上げて臨みたかっけて臨みたかったなあというのが正直な気持ち。それでも、天気には勝てないからね。決まったものはしかたがない。コンディションを整えて、秋田戦はベストな状態で！ゼツタイ、勝とう！

あ、J初ゴール、おめでとう！次も期待してるよ！遼太郎！！(ぐん)

●土岐の大型ショッピングモールでいろいろ買い物をして、帰りの交通機関の中で後半開始が出来ずにいる郡山の映像をスマホで見た。ちょうど、自分も多治見で思っきり雷雨を喰らったばかりだった、そしてその雷雨はすぐに上がったので「すぐに上がるよ」とか楽観していたのだけど、もちろん郡山は多治見ではない(笑)。その後の天候を視たら、後半開始の見送りは正しい判断だったと言えるだろう。

さて、(少なくとも)ぼくは『中止』という日本語にCancelledという意味をつけて考えてしまうので、そのアナウンスメントを視た時に「ああ、リードしてたのにアタマからやり直しなあ」とネガってしまったのだけど、Jリーグ規約においては「アタマから再試合(8/22のはCancelled)」「中断時点から再開(8/22のはSuspended←野球の『サスペンデッド・ゲーム』のサスペンドね)」「中断時点で試合成立(8/22のはCalled Off←野球の『コールド・ゲーム』のコールドね)」の3つのどれかになるのをチェアマンが決めることになっている。まあ、実際のところはチェアマンが「俺はこうしたいんだっ！」と勝手に決めるわけじゃなくて(笑)内部等で話し合った結果をチェアマン名で通知するんだろうけど。この、「Jでは『中止』にキャンセルの意味を持たせていない」というのを忘れてすぐに反応してしまうぼくの悪いクセは直さないといけなね。

個人的には、過密日程、移動も大変、コロナ禍の中でギリギリの運用、運営でリーグをまわしているのだから、ここはCall Offしてもらえないだろうか、と思うのだけど、福島には福島の事情があるでしょうし。公式発表を待ちましょう。

(吉田 Casting)